

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)(ユニット1)】

事業所番号	0171400146		
法人名	社会福祉法人 敬聖会		
事業所名	グループホームききょう (和ユニット)		
所在地	函館市桔梗町557番地		
自己評価作成日	令和3年2月	評価結果市町村受理日	令和3年4月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者と職員が生活を共にするという考えを大切にし、ゆったりとした空間であるよう努めている。加齢による心身変化についても事業所看護師、敷地内協力病院と密に連携を取りできるだけ限り本人と家族意向に沿って対応できるように努めている。ケア質向上を目的に、職員個々レベルに応じた研修へ参加したり内部研修を行い、スキルアップに励んでいる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JgyosvoCd=0171400146-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	令和3年3月4日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、函館市の北部に位置する桔梗町の丘陵地にある2階建て4ユニットのグループホームである。敷地内には、法人グループの医療機関や老人保健施設、ケアハウスが併設されており、生活と入院がシームレスに対応できる環境が整っている。また、環境面としては自然に囲まれ、函館山や市内が一望でき眺望が良い地区である。運営法人は、医療法人を母体とした社会福祉法人がケアハウスとグループホームを運営しており、当事業所は、介護保険制度開始後間もなく開設したグループホームで24時間の医療支援体制を構築している。ホーム内は、1フロア2ユニットの2階建て4ユニットで、玄関を挟んで左右対称にユニットがあり、ユニット毎に玄関を設置している。一つひとつの区画が広く設計されており、入居者がユニット間を往来できる環境であるため散歩することも可能である。居間には、おおきなテレビが設置され、畳の小上がりもあり、広くゆったりとしたリビングで入居者はいつも寛いで過ごしている。また、居室には、トイレと洗面台が設置されプライバシーに配慮している。新型コロナウイルス感染症予防対策のため、面会自粛されてる状況ではあるが、GoogleDUOを活用してのWEB面会を実施しており、感染拡大予防の最中でも可能な限り家族との絆を維持できるように努めている。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意図をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に念頭におきケアに取り組むよう、ミーティングや内部研修で話し合いが持たれている。	法人の基本理念と事業所の運営理念があり、両理念共に事業所内に掲示し、入居者や家族にも周知するよう努めている。両理念の共有に関しては、2日間かけて職員に年一回の新人研修にて理事長からの説明があったり、職員が判断に迷った時に振り返り、職員間で共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	会議形式は避け2か月に1度書面にて状況をお知らせしている。	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、現在は町内会の行事は不参加、事業所主催の夏祭りも中止となっている。隔週で移動販売(お菓子や果物等の販売)の業者が来られており、入居者の楽しみの一つとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1度町会役員の方に向け、施設内での様子を写真と共にお知らせしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議形式は避け書面にて入居者状況や施設予定、また日常の様子やイベントなどの写真も添えお知らせしている。	感染症拡大予防のため、運営推進会議は通常での開催はせずに書面にて情報提供している。検討内容を議事録として作成し、家族や地域の方、地域包括支援センター担当者などの参加予定者に日頃の利用者の様子をお伝えできるように配布している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主にホーム長が窓口となり市町村担当者と連絡を取り合いサービスの状況等を伝えている	函館市の担当者と連絡し、コロナウイルス感染症予防に関する対応についての相談や、困難事例の対応方法についてなどを相談し協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加したり、マニュアルに基づく勉強会で話し合いを行っている。夜間は防犯の為施錠しているがその他は開錠している。利用者さんの状況に応じ散歩、外出支援を行っている。	定期的にマニュアルや指針の整備を行っている。また、身体拘束をしないケアについては、毎月開催している主任ミーティング後に行われる、身体拘束廃止委員会やリスクマネジメント委員会にて開催し、3ヶ月に1回検討会を行っている。	毎月開催の主任ミーティング後に身体拘束廃止委員会を開催しているために議事録が主任ミーティングと同じ会議録内に記載されている。別で議事録を作成するのが望ましい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業書内での虐待が見逃される事が無いように注意を払い防止に努めている	勉強会やミーティングで話し合い、日頃よりスタッフ間で注意や意見が言い合える環境を意識し防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会やミーティング等で学び、必要性のある利用者がいた時は対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはケアや費用等の重要事項を十分に説明し、不安や疑問に対し出来る事を説明し理解を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱をエントランスに設置している。面会の時や連絡時において会話の中から気づいた事等繁栄させるようにしている。アンケートの結果や意見はユニット内で話し合い対応策を検討している。	ホーム便りを年3回発行して、運営状況を家族に報告している。また、入居者個々の生活状況については、意見箱をエントランスに設置しているが、面会自粛中であるため使用できていない状況。WEBでの面会を実施して家族の意見をお聞きし反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1か月に1度のユニット会議にホーム長も出席し意見を聞いたり、必要時は個別に時間を設け、意見を繁栄できるよう行っている。	月1回のユニット会議や主任ミーティングにおいて、その会議の中で職員の意見を聞き検討するようにしている。また、都度個別での相談も対応しており、提案された意見を反映できるよう努力している。	昨年に引き続き会議等は定期的に行っており、個人面談の実施や仕組みができていない状況であるため、今後定期的な個人面談を実施することに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って取り組めるように勉強会や研修に参加できるように促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のユニット会議で内部研修行っており、研修したい事や学びたい事の希望を取り入れ研修に繋げている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修会等や他施設の職員と事例について話し合ったり、意見を交換している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際には会話の中から本人が思っている事を引き出せるような雰囲気作りを意識し、信頼関係を築けるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談だけでなく電話での相談や来訪時に家族が何を思い希望されているかを聞き取り信頼関係を築く事に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様や家族がどんな支援を求めているのか、話しやすい雰囲気作りを意識し希望に添ったサービスを提供できるよう意見を引き出したり提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で不十分な所はサポートしながら本人の得意な事や知識を引き出し支える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に本人の状況を伝え体調面や精神面でのケアを相談し一緒に考えて頂いている。家族が遠方だったりなかなか面会に来れない方には密に連絡を行うよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	故郷や嫁いで長く暮らした馴染みの場所を普段の会話の中で多く持ち、いつまでも大切な気持ちや思い出を忘れないよう支援している。年賀状のやりとりや友人との電話などもサポートしている。	併設するケアハウスからの入居が多く、また入居者のほとんどは地元出身者であるため、以前までは友人や知人の来訪もあったが、今は感染予防のため来訪されていない。年賀状でのやり取りや電話対応等は継続して実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し座席の配置に配慮し楽しく食事が出来たり、ソファ席で会話や趣味を楽しめる空間作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も御見舞いに行ったり、家族の相談にのり支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中から希望を聞き、困難な場合は家族への情報を求めたり、スタッフ間での情報を共有しながら支援している。	ご家族の意向に関しては、4ヶ月ごとのケアプランの更新の際に、電話連絡をして確認している。また、ご本人の状況もお伝えし、これまでのご本人の生活状況をお聞きし、ケアに反映している。本人の希望や要望に関しては、普段の会話の中で好きなものや行きたいところなどを聞くなど、日常生活の中で本人の思いや意向の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴やバックグラウンドを詳しく探り、必要時には家族やそれまで関わっていたケアマネ等に情報をもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のリズム(食事、睡眠、排泄)を記録や申し送りを通じて把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の言動、表情、言葉等から得た気づきや家族の意向を記録し、その情報を基にミーティングで評価し4か月に1度介護計画に反映している。利用者の変化に応じ見直しもしている。	毎月各ユニットで開催しているカンファレンスにて、利用者毎にアセスメントやモニタリングを行い、計画作成担当者が本人や家族の意見や要望もまとめて原案を作成している。現状に即した介護計画を作成し、作成した介護計画はご家族へ説明し署名をいただいている。また、一語一句ご家族の言葉で作成した介護計画も作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った記録は関わりで記録し、見直し時に活かしている。体調に変化や印象に残る本人の発言等記録しプラン作成時に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や本人と話し合いながら出来るだけ希望に添えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動販売や病院の売店を利用している。また近隣の食堂より出前をとったりしている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特変時にはすぐに医師から家族へ症状の説明を行ったり、今後の事を話す機会を多く設け適切な医療を受けられている。	隣接している協力医療機関に月1回の職員が同行し受診の支援をしている。また、看護師も勤務しているため、24時間体制で適切な医療を受けられるように支援している。入居時前から関わりのある主治医がいる方は、本人や家族の希望を大切にしながら継続するよう心がけている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に体調に異変があった時はすぐに看護師に相談し指示を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の状態も細かく情報提供し、入院後は頻繁にお見舞いに行き今後の方針について医師や看護師等と定期的に話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	定期的に細かく情報交換し、重度化してきた時は家族とも都度話し合いながら、看取りの指針や必要な説明事項を用意し必要時に行っている。早めの段階から少しずつ家族の意向を確認するよう努めている。	重度化や終末期については、入居契約時に終末期の方針を説明し同意を得ているが、定期的に意向を確認している。また、重度化した場合に再度打ち合わせして意向を確認しているが、看取りを希望する方の多くは、最終的には医療機関へ移行することが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルを作成しAED講習も行っている。ミーティングでも勉強会を行い話し合いを持ちながら実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのもと定期的に訓練し、緊急時には他施設と協力し行っている。緊急時マニュアル、災害時連絡網は見える所に掲示しておりそれに従い対応している。	緊急時マニュアルや災害時連絡網を整備しており、年2回の避難訓練も実施している。隣接するケアハウスに米と水以外の食料備蓄や備品も備えている。以前までは地域との協力体制を築いていたが、今年度は感染症拡大の影響で実施できていない。	避難訓練の実施はできているものの、災害時に隣接の医療機関や事業所と分断された時に、建物単位での設備が整っていない状況がある。建物単位で発電機などの非常用電源の準備が望ましい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りを尊重し、プライバシーの確保を職員同士で心がけている。ミーティングや研修でも話し合い、気づいた事はその場で言えるように環境を整えている。	ミーティングや接遇研修を通じて、日常の言葉遣いや申し送り時の入居者のプライバシー配慮など、職員同士で注意し合ったり指導したりして、その方の人格を尊重しプライバシーの配慮を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような声掛けや場面作りを行っている。自己決定が難しい方は表情や言動など関わりの中から汲み取れるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	利用者様優先とし起床や食事、入浴時間等も個々に合わせている。共有スペースや自室過ごす時間も本人のペースで過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設内での行事やイベントの時は自分で服を選んでもらったり、外出時には早めに声をかけ髭剃りや身だしなみの時間をとるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や下膳を行って頂いたり、出来る方には食器洗いや食器拭きも一緒に行っており、楽しく食事ができるよう席の配置の工夫もしている。 誕生日には希望の食べ物をお聞きし提供している。	入居者に手袋を使用してもらい、盛り付けを手伝ってもらったり、下膳や食器拭きなどもできる方に職員からお願いして手伝ってもらっている。席の配慮は、話の合う方と同テーブルになるようし、穏やかに食事ができるよう配慮している。食事は、隣接しているケアハウスからの供給となっており、誕生日は特別食として提供し、その方の好きな食事を提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事量や水分量を把握し提供している。食事量の少ない方は栄養補助食品や個別に好みの代替品を用意し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや確認を行い、義歯の方には定期的に洗浄剤使用している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の状況に合わせて声掛けや誘導、介助を行い自立に向けた支援を行っている。	ミーティングや申し送りの際にその方の排泄パターンを職員間で共有し、時間を見ながら声掛け誘導することで、トイレでの自立した排泄に向けた支援をしている。居室には、トイレと洗面台が設置しており、プライバシーに配慮された環境を整備されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を活用しながら乳製品や水分補給に努めている。散歩や体操も行い予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	個々の希望に合わせて時間や曜日等柔軟に対応している。2/wの入浴提供実施し身体状況に合わせてシャワー浴や清拭、足浴行っている	浴室は広く、浴槽も大きくゆったりと入浴できる環境が整備されている。週2回以上の入浴を提供しており、ユニット毎に曜日や時間が決まっているが、入居者の希望に合わせて対応している。拒否がある入居者に関しては、時間をずらしたり職員を替えて対応するなど、入居者個々の状況に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況により自由に休息できるよう支援している。安眠できるよう室内の温度調節、加湿に配慮し見守り見守り行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を把握し、服薬変更があった場合は状態観察を行い主治医にも報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあった役割を継続できるよう得意な事を把握し力を発揮出来る場面作りをしている。食べ物を好みの飲み物を把握し移動販売の活用や買い物代行し希望時すぐに提供できるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の散歩や外気浴を支援している。今は外出が厳しい為移動販売の利用や自販機、病院の売店活用している。	コロナウイルス感染症拡大予防のため、外出は自粛しているが、移動販売に来てもらったり自動販売機まで一緒にジュースを買いに行くなど、可能な範囲で気分転換が図れるよう工夫している。感染症が落ち着けば、函館山までの外出行事を計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方にはご家族に相談のうえお金を所持して頂いている。買い物の時は職員と一緒に行き希望時は支払い代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に固定電話を設置できる環境を整えており、家族や友人に電話をかけられている。年賀状のやり取り等も希望を聞きながら支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の飾り付けをし季節を感じられるよう工夫している。エントランスもイベントごとにお雛様やクリスマスツリーを飾る事で共有スペースとして活用している。	共用空間のリビングや食堂は、広くゆったりした空間となっており、大きなテレビが設置、畳の小上がりもある。採光や風通しもよく、定期的に換気もされている。自然な飾り物や季節の飾り物があり、清潔感のある居心地の良いリビングで入居者はいつも寛いで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ席や食事席の配置に配慮し馴染みの方が談笑しやすいように工夫している。また一人の空間も大切に出来るよう離れた場所にもソファや本棚を用意しスペースを設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活を継続できるよう、入居時は使い慣れた馴染みの物を持参して頂き過ごしやすいようにしている。	居室は、和のテイストの造りを基本とし、トイレと洗面台、大きな収納クローゼットや棚もあり、環境整備もされている。利用者は使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見える場所に、新聞、パズルや本、塗り絵など置いており自由に持ち出せるようにしている。居室の出入り口に個々にあった好きな物を飾り付けをしわかりやすいようにしている。		